

ID ^{注1)}	031111	公開レベル ^{注1)}	C	保管形式 ^{注1)}	紙	保管場所 ^{注1)}		前回ID	
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	---	---------------------	--	------	--

報告書名称 /調査名称	白山山地世界遺産地域の森林生態系保全のためのモニタリング手法の確立と外縁部の森林利用との調和を図るための森林管理に関する研究報告書（平成10～14年度）／ 檜石山斜面地における蘇苔・地衣類調査						発行年月/報告年月	
							2004年	2月
							資料形式 ^{注2)}	報告書

調査機関	環境省自然環境局 東北地区自然保護事務所	委託機関	井上正鉄(秋田大学教育文化学部)
------	----------------------	------	------------------

調査開始年	2001年	8月	調査期間	2000年	10月	～	2001年	8月
-------	-------	----	------	-------	-----	---	-------	----

調査頻度 ^{注2)}	—	—	—	調査時期 ^{注2)}	夏	秋	—
---------------------	---	---	---	---------------------	---	---	---

モニタリング計画	2012年3月 策定	区分 ^{注2)}	ⅡB	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(2)
----------	------------	-------------------	----	--------------------	---	--------------------	-----

調査箇所・範囲 ^{注3)}	目的・調査手法
------------------------	---------

核心地域 緩衝地域 周辺地域

GPS等の位置データあり

※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。

■調査目的
「白山山地世界遺産地域の森林生態系保全のためのモニタリング手法の確立と外縁部の森林利用との調和を図るための森林管理に関する研究」の一環として、地衣類をこの命題に資するため、その生育の現況、特に地衣類相を把握することを第一の目的とした。

■調査方法
調査は定点の全域で行い、ブナや岩石等、地衣類の着生している基物(着生基物)の名称を記録した。ブナ林の毎木調査が行われた「檜石山南斜面中腹メインサイト」と「泊の平サブモニタリングサイト内」においては地衣類の着生している樹木の名称とともに各々に付されている固有の番号も記録した。採集に際して、積雪量が多いため地衣類の着生部位が樹幹の高い位置に達する泊の平においては、長さ約3mのアルミ棒の先に刃物を仕掛けた採集用具を用いて、また今後のモニタリングに重要な要素になることが予想される大型地衣類のカプトゴケ類やサルオガセ類については高さ4m前後の樹幹上であっても特に採集を試みた。

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

■檜石山中腹に設定された森林動態小班のコードラート内(海拔520m)
ブナ等の樹幹上とブナ株元および地上を調査した。コードラート全域の蘇苔地衣類フロラの変遷をモニターするためである。森林動態小班によってコードラート内の樹木はすべて番号が付されているためこれをそのまま利用した。なお地衣類にとってはこのコードラート内は林冠に厚く被われているため暗く、総じてその生育に不適な環境である。
ブナ、ウダイカンバ、サワグルミ等の樹幹上：叢蒼とした林内は地衣類の生育に良好な環境とはいえず、大型地衣類はコナウチキウメノキゴケMyelochroa aurulenta、ナメラウラムゴケNephroma bellum(葉状地衣類)以外殆どみらず、代わって固着地衣類のBiatora leucosoralis、サビイボゴケBrigantiaea ferrugineium、Megalospora tuberuculosa、ミチノクモジゴケGraphis rikuzensis、チャクロイボゴケモドキLecidella elaeochroma、クサビラゴケOchrolechia trochophora、Pertusaria pertusa、Pertusaria violacea、ブナノモツレサネゴケPseudopyrenula cinereoglaucescens等がブナの樹皮の文様の如く 痂状に生育している。
地上:地衣類はヤリノホゴケCladonia coniochraea(樹枝状地衣類;このような暗い環境によくみられる)以外殆どみられない。

■泊の平サブモニタリングサイト内(海拔830m)
ブナ林の毎木調査方形区内で、平坦地に発達するブナの優占する林分と、平坦地と斜面との境界のチャネルに発達したサワグルミの優占する湿性の林分を含む。ブナは胸高直径が1mに達する個体もみられる。チシマザサの他にオオカメノキ、ハウチワカエデ、ミネカエデ、タムシバ、ホオノキ等が多くみられる。オオカメノキは特に多く、亜高木層や低木層を構成している。林床は比較的明るい。
ブナの優占する林分は平坦地に発達していて積雪深が深い。そのためヘリトリゴケ類(広義)Icicleoid lichensやモジゴケ属Graphis、ダイダイゴケ属Caloplaca、トリハダゴケ属Pertusariaなどの固着地衣類が地上高2m前後の樹幹上に生育しているにすぎず、カプトゴケ属Lobaria、ウメノキゴケ類(広義)parmelioic lichens、サルオガセ属Usneaなどの大形の葉状・樹状地衣類はいわゆる“雪線”以上の部位にみられる。その生育状態はすこぶる良好である。

問い合わせ	環境省東北地方環境事務所 西目屋自然保護官事務所 〒036-1411 青森県中津軽郡西目屋村大字田代字神田61-1 TEL:0172-85-2622 FAX:0172-85-2635 《原本(データ)の帰属について》
-------	---

注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

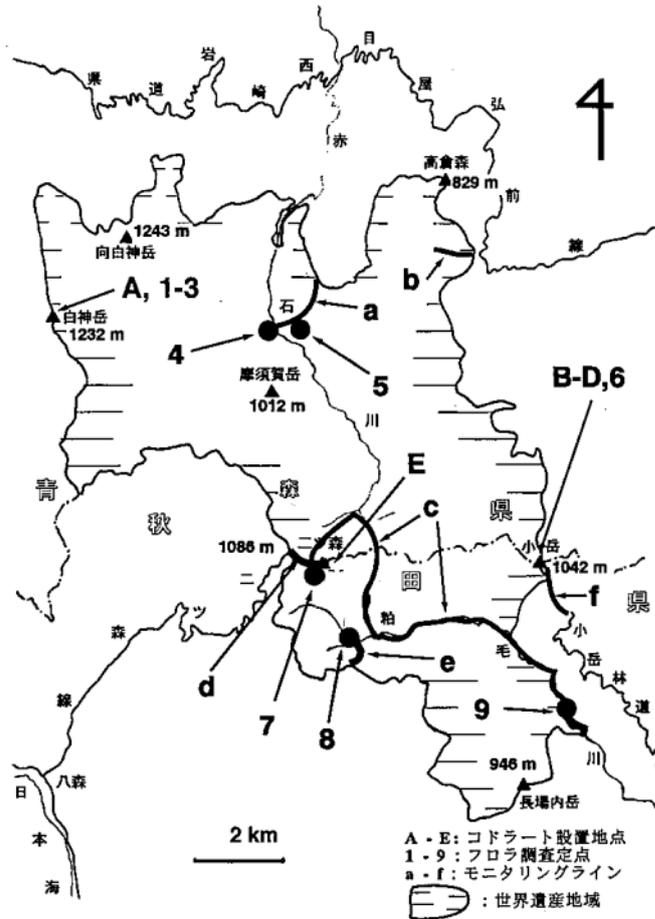


図1. 各モニタリング調査地点

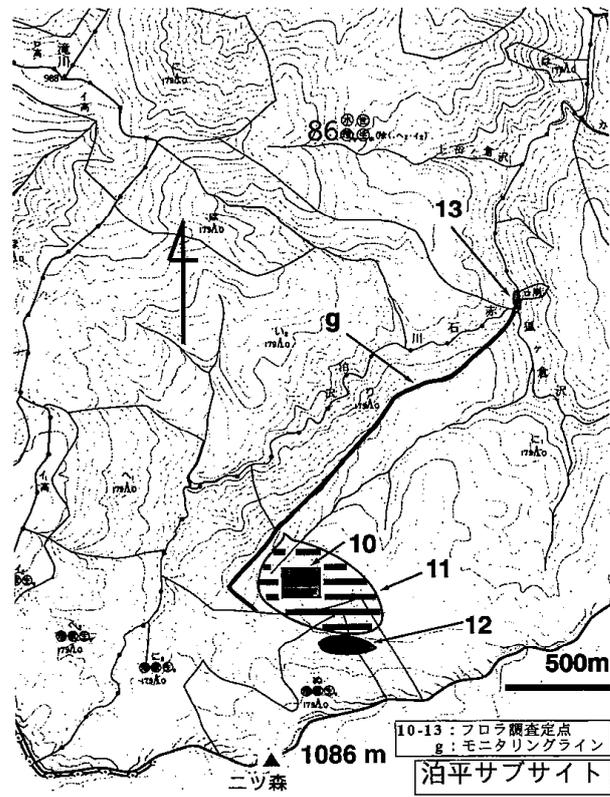


図2. 泊の平サブモニタリング調査地点